

卒業証書授与式



3月1日(水)、京都府立宮津天橋高等学校の第1回卒業証書授与式を加悦谷学舎で挙行了しました。当日は宮津学舎と加悦谷学舎の卒業生233名が一堂に会し、宮津天橋高校第1期生として思い出の詰まった母校を巣立ちました。

3年前、宮津高校と加悦谷高校が宮津天橋高校として1つの学校となり、新たな歴史のスタートをきりました。しかし、同時期から新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、多くの行事が規制され、学年全員が揃った状態で校歌を斉唱する機会はこれまで一度もありませんでした。今回の卒業式では第1期生が母校を旅立つ日としてふさわしい卒業式となるよう、マスク着用を徹底した上で、はじめて本校の校歌を斉唱することができました。本校の校歌を斉唱する生徒たちの目には3年間を振り返り、これまで過ごした学び舎への思い出や次のステージに向けた期待が感じられました。

校長式辞では「あなたたちのがんばりを人々を助けるために使ってください。そして、これまで学んだことを正しいことに使いなさい。お幸せに」と卒業生の新たな門出を祝うとともに、次のステージでの活躍を願うエールが送られました。また、在校生代表として宮津学舎生徒会長の東山綾

さん(HR23)と加悦谷学舎生徒会長の中面類さん(HR21)は『宮津天橋1期生』という大きな役目を立派に果たされた先輩方の跡を引き継ぎ、新たな伝統を築き上げられるよう一層努力いたします」と送辞を述べました。これに対し、卒業生代表の宮津学舎の福山心花里さん(HR31)と加悦谷学舎の白数想さん(HR32)から「3年間のかげがえのない時間、仲間と共に成長しあった日々を糧に、社会で活躍できる人になれるように、精進していきます」と答辞が述べられました。

式の後には、保護者の皆様にも教室へ入っていただき、最後のホームルームが行われました。担任が一人一人に卒業証書を手渡し、いろいろな思いが詰まった固い握手を交わしました。そして一人一人がたくさんの苦楽をともにした仲間やこれまで育ててくれた保護者への感謝の気持ちを述べ、

涙と笑顔で3年間の高校生活に幕を閉じました。

宮津天橋高校として始動した3年前からさまざまな行事や大会の中止・延期など、卒業生にとっては思い描いていたものとは異なる高校生活となったかもしれません。しかし、そんな状況下にも負けることなく、時には互いを鼓舞し合い、さまざまなチャレンジを繰り返すことで、宮津天橋高校第1期生にふさわしい新たな伝統を築き、後輩達を牽引した3年生でした。これからの社会で個性を活かし、大きく羽ばたいてくれることを期待しています。また、保護者・地域の皆様におかれましても、入学時から本学舎の教育活動へ多大なる御協力をいただきました。3年間、誠にありがとうございました。



Safari（総合的な探究の時間） 最終報告会



2月8日（水）、普通科2年生が Safari（総合的な探究の時間）で1年間かけて取り組んだ探究活動の最終報告会を実施しました。当日は、大学教授をはじめとする外部講師の方々にもお越しいただき、各グループ10分の発表を4回ずつ、前半・後半に分かれて行いました。4月から始まった探究活動でしたが、10月の中間報告会での課題や反省を踏まえ、どのグループも自分自身のテーマをさらに深化させた内容になっていました。最後の講評では、お越しいただいた大学教授から探究活動の評価とともに「これからの社会で求められる、点数として見えない『学力』を強みに、自分の興味・関心をさらに探り、目的意識を持って次の進路に向かって頑張してほしい」という言葉が送られました。

宮津学舎の探究活動は、学校近くの寺院でのフィールドワーク、廃校を活用した地域の活性化、地元の環境調査など地域に根ざした探究活動を積極的に行っている点が大きな特徴です。生徒がこれまで過ごしてきた日常に目を向け、些細なことに対して疑問をもち、そこから新たな発見をすることで日常の見え方も少しずつ変わっていきます。これからも自らたくさんのことを学び続ける姿勢を持ち、自分自身の生活を彩り豊かなものにしてほしいと思います。

天橋芸術祭 2022

2月10・11・12日（金・土・日）に宮津市民体育館で、「天橋芸術祭 2022」を開催しました。前身である「美術・書道作品展」から数えると今回で28回目となります。昨年度まで新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から2年連続で中止していましたが、名称を新たに「天橋芸術祭」とし、3年ぶりに開催することができました。3日間の中で美術部・書道部・写真部・建築研究部、建築科、書道・美術の授業選択者の作品展示や吹奏楽部・琴部、音楽の授業選択者の発表が行われ、本学舎生徒のみならず、保護者や地域の方々を含め約800の方に鑑賞していただき、生徒の学校での活動を広く知っていただく機会となりました。「美術・書道作品展」を知る生徒がない中での開催となりましたが、生徒は前向きに自分自身の作品の制作に取り組み、当日はそれぞれの個性が発揮された作品を展示することができました。天橋芸術祭では作品の展示、鑑賞や演奏の披露などを通して自身の活動への達成感を得るとともに、自身をさらに成長させるきっかけとなったのではないのでしょうか。この経験を活かし、次のステップへ向けて進んでほしいと思います。



高校生議会

2月14日（火）、京都府議会議員の方と本学舎の生徒がオンラインによる出前高校生議会を3年ぶりに実施しました。議会ではそれぞれの立場から意見を交流したり、質疑応答をしたりすることで、生徒たちの社会参加への意識の高まりが感じられました。また、実際に自分たちが住む地域をよりよくしようと活動している方の話を聞くことで、普段の授業では学ぶことができない専門的な内容を学ぶことができました。さらに今後の地域や社会の在り方については活発な意見交流があり、これから急速に変化する社会を生きていく生徒にとってはとても刺激的な経験をすることができました。人工知能の発達や地域の過疎化など、これから直面するさまざまな課題に対して、自分なりの考えを持って行動できるような人になってほしいと思います。

「3年ぶりの開催となった高校生議会でしたが、地域活性化に必要なことを話し合ったり、2045年に存在する職業について考えたりすることで、これまで自分が持っていなかった新しい考えに触れることができました。この議会に参加できた経験を活かして頑張りたいと思います。」 加畑凜（HR23）

